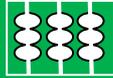


【ねらい】

2数の倍関係を用いると、全体量を求められる場合があることを理解する。

課題

3本で240円のだんごがあります。このだんご12本の代金はいくらかでしょう。



代金を求める式を考えましょう。

自分の考えをテープ図や絵などを使って説明してみよう。



既習事項

① だんご一本の値段から代金を考える。(テープ図)

② 何倍のだんごを買うかを求めて、代金を考える。(絵)

自力解決

①

3本の値段

1本の値段

0 1 3本

(式)

$$240 \div 3 = 80$$

$$80 \times 12 = 960$$

答え 960円

②

1箱240円 → 4箱分

(式)

$$12 \div 3 = 4$$

$$240 \times 4 = 960$$

答え 960円

1 テープ図や絵などを活用して、自分の考えた方法を発表する。

① わたしは、テープ図を活用してだんご1本分の値段を求めました。3本で240円なので

- $240 \div 3 = 80$  1本80円
- $80 \times 12 = 960$  答え 960円 となりました。

② ぼくは、何倍のだんごを買うかを求めて計算したよ。

- $12 \div 3 = 4$  で 4倍のだんごを買うから
- $240 \times 4 = 960$  答え 960円 となりました。

× 4

集団思考

①は1本分の値段を求めているんだね。②は12本が3本の何倍になっていることを基に考えているんだ。

では、同じ場面でだんご3本の値段が200円だった場合、どうなるか考えてみましょう。同じように考えることができるかな？

指導上の留意点

● テープ図が書けない場合には、実際に箱に入った団子を用意し、考えさせる。

● どちらの考え方も「全体量」を求めていることを捉えさせていく。

● ①の考え方は、1本の値段を求めていることに気付かせる。

● ②は、12本が3本の何倍か求めていることに気付かせる。

● 3本が1箱になっていることを確実に捉えさせる。

● 1本分の値段が求められない場合の値段の求め方について問いをもたせる。



(1) ①の考えを使ってだんご1本の値段から考えてみました。  
 $200 \div 3 = 66$  余り2 あれ? わりきれないのでだんご1本分の値段が求められないわ。答えを出すことができない。

(2) ②の考え方をを使って何倍のだんごを買うかをもとに考えました。  
 $12 \div 3 = 4$  200円の4倍だから  
 $200 \times 4 = 800$  答え800円



- ①②の考え方をを使って代金を求めさせる。

## 2 それぞれの考え方について話し合う。

集  
団  
思  
考



(1) は  $200 \div 3$  でわり切れない。だんご1個分を求める計算方法は使えないよ。

(2) は何倍のだんごを買うかは、分かっているのもとになる値段の4倍で答えを出せました。



- 全体量を求めるときには、2つの数の倍関係から求めることができることを捉えさせていく。



全体の代金を求めるときには、1本分の代金が求められない場合もあるんだね。でも、何倍のだんごを買うかが分かっていたら代金を求めることができるんだね。



1本の値段が求められなくても、倍の関係を使えば代金を求めることができるね。

2数の倍関係を用いることよさについてまとめよう。

ま  
と  
め

○ 適用問題に取り組む。(教科書や単元問題ライブラリー)

○ 本時のまとめをする。

- ・ 1個の値段が分からなくても、個数と代金の関係(倍の関係)を使えば、全体の代金を求めることができる。

- 場面によって、使い分けを行っていくことが大切であることを伝える。